

# 桑原裕子 YUKO KUWABARA

SPECIAL INTERVIEW

4月には穂の国とよはし芸術劇場PLAT芸術文化アドバイザーに就任するなど、精力的な活動が続ける劇作家・演出家の桑原裕子。北九州芸術劇場プロデュースによるその最新作『彼の地Ⅱ』にも注目が集まります。

——2014年にも福岡県北九州市小倉の北九州芸術劇場で『彼の地』の作・演出を手がけられ、作品は好評を博して2016年にも再演されました。今回はそれ以来の北九州芸術劇場プロデュース作品です。

そのとき北九州に初めて長期滞在したのですが、実際に住んで経験したことや景色も戯曲に盛り込むことができましたし、出演者に教えてもらってセリフも北九州弁に直していったり、みんな楽しんでながら作っていった感覚がありますね。北九州の方々も腹が据わっていて、たくて強くてこしのあるうどんのような印象で、面白いことに対して素直に前向きに取り組んでいくエネルギーを感じました。私は東京の町田市に住んでいるのですが、緑と商店街と風俗街が雑多にある感じが、町田と小倉ってどこか似ているなあと。前回オーディションではほとんど地元の役者さんを選び、私が主宰する劇団KAKUTAからも役者が数名参加しましたが、今回のオーディションでは広島、山口、東京、大阪と本当にいろいろなところから受けに来てくださって、福岡県出身の方とそうでない方と半々くらいのキャストになりました。

——前は小倉を中心に描かれていましたが、今回は北九州のさらに広い地域が舞台になるとか。北九州市は七区あって、それぞれ街の色がみんな違う感じなんです。ビル街のある小倉近辺はちょっとグレーで、赤茶けてくると製鉄所のある八幡だし、海の青が見えて来ると若松、門司港レトロの建築物が並ぶ門司はキャラメル色だとか。せっかくなら九州の話を書くので、もっと全域を

グローバルに感じてみたいという野望があって。街にくる人、去る人、ここにいるのかと浮遊している人、街の中でも少し離れたそことことでずっと逢えない人、そんな出逢いと別れにまつわる物語が街に集結しているというスタイルは、今回も踏襲していきたいですね。前は“父と子”を描きましたが、今回は“母と子”をテーマに、ハチャメチャな母に育てられた女の子が、もう亡くなってしまったその母とこの街を旅するような、母を知る旅の物語にできたらという思いがあります。自分自身、執筆していると常に母のことを考えているところがあって。もしかしたら自分はずっと母に対してラブレターを書いているんじゃないかなんて、そんなことを思ったりもするんです。

——そんな北九州を舞台にした作品が、とよはし芸術劇場でも上演されます。

北九州あるあるネタはもちろん登場すると思いますし、登場人物の話す言葉こそ方言は違いますが、人と人との出逢いと別れが街を形成していくという意味では、豊橋周辺の方々にも普遍的なものとして観ていただける物語になると思います。この作品を観て北九州に行ってみいなと思われる方がいたらうれしいですし、それだけではなく、自分の故郷に帰ろうかなとか、故郷である豊橋のことを考えたりとか、そんな作品になっていったらいいなと思っています。

©Interview&Text / 藤本真由(舞台評論家)  
©Photo / 重松美佐



©トミタユキコ

## PLATプロデュース『荒れ野』も大絶賛! KAKUTA主宰・ 桑原裕子が紡ぐ群像劇

やってきた人、ずっといる人、出て行く人。新しい土地に馴染めるか不安になったり、ずっといるのにどこか居心地の悪さを感じたり…誰もがそんな他人からは見えない想いを抱え、この街で今日を生活している。桑原裕子があたたかい視線で紡ぐ北九州の匂いの群像劇を、北九州を皮切りに、東京、豊橋と巡回公演をおこないます。

3/10 SATURDAY・11 SUNDAY  
【チケット発売中】

### 北九州芸術劇場プロデュース 『彼の地Ⅱ～逢いたいひ、と。』

- 会場 / 穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース
  - 開演 / 3月10日(土) 14:30 3月11日(日) 13:30
  - 料金(税込) / 全席自由・整理番号付き 一般¥3,000  
U24(24歳以下) ¥1,500 高校生以下 ¥1,000
  - お問合せ / プラットチケットセンター TEL.0532-39-3090
- ※未就学児入場不可

北九州を舞台に描く  
桑原裕子の最新作が  
とよはし芸術劇場に登場。